



映画の「砂の器」の撮影に使われた八川駅の駅舎。



きすき 木次線ストロール⑤
やかわ 八川駅
「映画のロケに使われた駅舎と
名物の手打ち蕎麦」

取材予定日の1月15日月曜日は、朝から小雨が降っていた。天気予報は曇り時々小雨で、気温もさして低くはなく、これぐらいなら大丈夫だろうと午前8時半過ぎに、庄原市内の自宅を車で出た。曜日が限られているので、一週間先延ばししても晴れてくれる保証はない。

国道183号線を備後落合駅の手前で左折して、国道314号線を登って行くと、沿道にちらほら雪が残っている。油木駅の前を通る頃には、小雨がみぞれに変わってきた。余談だが、油木町にある高原酒造のどぶろく「油木のしずく」を先日、購入した。庄原酒販が毎月

開催している地酒の「利き酒・試飲イベント」で、「油木のしずく」も販売されている。どぶろくなので、米粒が残るどろりとした食感なのだが、思いのほかすっきりした喉越しで、米の甘味がじんわりと広がってくる。

みぞれは吹雪に変わって、三井野原高原トンネルの向こうは完全な雪景色だ。列車は運行しているのか不安になった。近年の木次線は降雪による運休が多く、「また冬休み？」と鉄道ファンから揶揄されている。おろちループを下るにつれて、

雪はまたみぞれにかわり、出雲坂根駅に着く頃には小雨になっていた。それだけ高度差があるのである。

10時6分発の木次行き列車がホームに入って来た時にはホッとした。木次線では、きすきいろ（山吹色）をベースに、それぞれ4色のラッピング列車が走っている。今回はたたら製鉄の灰色と山吹色のツートンカラー。

スイッチバックで、ホームに停車した列車の中を運転士が移動する。乗車は後ろのドアから。列車の前後が逆になるので、待機する場所を間違えてしまい、あわてて反対側の扉まで走った。列車は、進行方向を変えて動き出す。

先客は一人だけ、服装から観光客だろうか。奥出雲おろち号のラストランで熱狂した昨年11月の賑わいが遠い昔のようだ。15分ほどで、八川駅に到着した。駅の出雲神話にちなんだ愛称は「脚摩乳（あしなづち）」、奇稲田姫（くしいなだひめ）の父神で大山津見神（おおやまつみのかみ）の子。つまり、脚摩乳は山の神の子供で、美しい山々を守ってくれているという寓意が込められている。

3頁の『砂の器』と木次線



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン:ROUTE183
協賛：九日市愛好会